

様式①

提案内容への適合報告書

当該申請の内容と長期優良住宅先導事業の提案申請書に記載されている提案の内容との適合状況は、次のとおりであることを証明する。

平成 年 月 日

財団法人

東京都防災・建築まちづくりセンター まちづくり推進課

支部長 橋浦 憲男 印

日付は未記入として下さい。

提案名は変えないで下さい。

1. 住宅等の基本事項

提案名	新住協の断熱耐震同時改修プロジェクト
住宅の所在地	〇〇県〇〇市〇〇〇 ×-××-××
建て方等 (該当するものに「レ」)	<input checked="" type="checkbox"/> 一戸建ての住宅 ( <input checked="" type="checkbox"/> 注文住宅 <input type="checkbox"/> 建売住宅 <input type="checkbox"/> その他 ) <input type="checkbox"/> 共同住宅等 ( <input type="checkbox"/> 分譲住宅 <input type="checkbox"/> 賃貸住宅 )
単独棟/複数棟 (該当するものに「レ」)	<input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/> 複数棟で構成される団地
構造・工法 (該当するものに「レ」)	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 ( <input checked="" type="checkbox"/> 在来軸組 <input type="checkbox"/> 枠組壁工法 <input type="checkbox"/> プレハブ <input type="checkbox"/> その他 ) <input type="checkbox"/> 鉄骨造 ( <input type="checkbox"/> プレハブ <input type="checkbox"/> その他 ) <input type="checkbox"/> RC造 ( <input type="checkbox"/> プレハブ <input type="checkbox"/> その他 ) <input type="checkbox"/> その他 ( )
階数等	地上〇階建て (内〇階 〇〇号室)

(注)

- 「提案名」欄には、提案申請書様式1に記載してある「応募事業提案名」を記載すること。
- 「住宅の所在地」、「建て方等」、「単独棟/複数棟」、「構造・工法」欄は、「住宅の新築に関する提案」、「既存住宅等の改修に関する提案」についてのみ記入
- 1戸建ての住宅については「階数等」欄の ( ) 内の記載は不要。

2. 申請者等の概要

申請者	氏名又は名称 〇〇工務店 住所 〇〇県〇〇市〇〇〇 ×-××-××
建築主	氏名又は名称 山田 太郎 住所 〇〇県〇〇市〇〇〇 ×-××-××

(注)「建築主」欄は、「住宅の新築に関する提案」、「既存住宅等の改修に関する提案」についてのみ記入

3. 長期優良住宅建築等計画の認定基準への適合状況（「住宅の新築に関する提案」についてのみ記入）

記入しないで下さい。

適合性の評価
適 ・ 不適

(注)

1. 「妥当性の評価」欄には、どちらか該当する方に○をつけること。
2. 共同住宅等に係る場合は、補助対象となる住戸全てについて確認すること。

4-1. 「建築士による提案内容への適合確認書」の妥当性（「住宅の新築に関する提案」、「既存住宅等の改修に関する提案」については記入）

記入しないで下さい。

妥当性の評価
適 ・ 不適

(注) 「妥当性の評価」欄には、どちらか該当する方に○をつけること。

4-2. 先導的な提案内容への適合状況（「維持管理・流通等のシステムの整備に関する提案」、「技術の検証に関する提案」、「情報提供及び普及に関する提案」については記入）

記入しないで下さい。

提案項目	提案概要	適合性確認の方法	適合性の評価
構造躯体の耐久性 (劣化対策)	1. 現状調査 木材の腐食、蟻害、 床下土間のカビ等の 調査。断熱材の状態、 充填部位や種類、厚さ 等の調査	事前調査書・写真等	適 ・ 不適
	2. 床下の防湿 床下空間の良好環境	工事計画書	適 ・ 不適
	3. 壁内に気流止めの施工 及び壁内結露防止	工事計画書	適 ・ 不適
住宅の耐震性	住宅性能表示 耐震等級1以上へ改修	耐震診断表 耐震計画図	適 ・ 不適
内装・設備の維持管理 の容易性	1. 改修部分の配管に鞘管を 採用しメンテナンスを容易 にする	平面図 工事計画書	適 ・ 不適
	2. 天井、床の改修部分に点 検口を設け、管理しやすく する	平面図 工事計画書	適 ・ 不適
変化に対応出来る良質 な住居空間	高断熱による温度差の少な い室内環境。冬季でもオー プンな暮らしを実現する	平面図等 工事計画書	適 ・ 不適

記入しないで下さい。

長期に利用される躯体 において対応しておく べき性能 (省エネルギー対策)	1. 断熱材の補充、付加断熱、 開口部強化、熱交換換気 の採用などを行い、全地 域で次世代省エネ基準等 級4を目指す。I地域1.6、 II地域1.9、III地域2.4、 IV・V地域2.7。但し、I 地域でA工法の場合はII 地域同等とする。	QPEXによる計算書 工事計画書	適 ・ 不適
	2. ペアガラスの機能を生か した適材適所の使い方	QPEXによる計算書	適 ・ 不適
	3. 気密性能の向上	気密測定結果表	実績報告時に確認
長期に利用される躯体 において対応しておく べき性能 (バリアフリー性)	高断熱による温度差の少 ない室内環境によりオー プンな間取りが可能。バ リアフリー改修を容易に する	平面図等	適 ・ 不適
長期に利用される躯体 において対応しておく べき性能 (防耐火性能)	付加断熱は通気層がある ので火災に対して安全な 断熱材を使用する。但し、 I、II地域では難燃性も 可	工事計画書	適 ・ 不適

(注)

1. 「提案項目」、「提案概要」、「適合性確認の方法」欄には、提案申請書様式6に記載してある内容を記入すること。欄は適宜追加すること。
2. 「適合性の評価」欄には、どちらか該当する方に○をつけること。

#### 5. 積算内訳の妥当性

記入しないで下さい。

妥当性の評価
適 ・ 不適

(注) 「妥当性の評価」欄には、どちらか該当する方に○をつけること。